

iEARN

International Education and Resource Network

子どもたちの絆が世界を変える！

- 1 Imagine
- 2 **Envision**
- 3 Explore
- 4 Prepare
- 5 Experience
- 6 Assess
- 7 Share
- 8 Progress



ENVISION:

Reflect on your existing classroom objectives and related educational standards, and how they can be enhanced through global collaboration.

オンラインプロジェクト学習

iEARN(アイアーン)は世界約115カ国、2万校、約100万人の子どもたちからなる教育NPOインターネットなどのICT(情報通信技術)を使った国際交流を通して、理解を深めながら「国際協働プロジェクト」を推進している世界最大の国際教育ネットワーク

JEARN(ジェイアーン)は、iEARNの日本センターです

 **JEARN** NPO法人 グローバルプロジェクト推進機構



JEARN・iEARN案内

<目次>

- 1 グローバルプロジェクト推進機構（JEARN ジェイアーン）
 - 1.1 JEARN の概略
 - 1.2 JEARN の歩み
 - 1.3 JEARN の推進体制
- 2 iEARN（アイアーン）の概略
 - 2.1 iEARN の理念
 - 2.2 iEARN の歩み
 - 2.3 iEARN のネットワークと国際協働プロジェクト
 - 2.3.1 ネットワーク
 - 2.3.2 国際協働プロジェクト
 - 2.4 参加国と地域
- 3 iEARN のプロジェクト
 - 3.1 iEARN のプロジェクトの概念
 - 3.2 iEARN のプロジェクト推進体制
 - 3.3 おすすめiEARNプロジェクト
 - 3.4 国内での参加校一覧
- 4 国際会議
 - 4.1 iEARN 国際会議
 - 4.2 国際会議の歴史

1 グローバルプロジェクト推進機構 (JEARN)

1.1 JEARN (ジェイアーン) の概略

世界最大の国際教育ネットワーク iEARN の日本センターである JEARN (正式名称は「グローバルプロジェクト推進機構」) は、日本で初めての本格的な国際協働プロジェクトを推進する教育 NPO (特定非営利活動法人) です。

iEARN が展開する ICT (情報通信技術) を活用した毎年 150 以上もの国際協働プロジェクトを、JEARN のインターネットテレビ会議などの ICT を活用した新しい仕組みで、「学校と地域との連携」を基礎に、会員のみなさまの国際協働プロジェクトを支援しています。

子どもたちは国際協働プロジェクト学習を通して、自ら気づき、自らの力で、考え行動できる「生きる力」を身につけます。

JEARN は国際社会において、地球的視野に立って、主体的に行動できる人材の育成を目指して国際教育を推進しています。

神戸事務所 〒651-0085 神戸市中央区浜辺通 4-1-23 三宮ベンチャービル 503
TEL&FAX 078-251-6833 e-mail office@jearn.jp
URL: <http://www.jearn.jp/>

1.2 JEARN の歩み

1985 年、テレビ電話を使用した国際交流学習を支援する、ハワイ州教育省外郭・非営利団体 (認証番号 501 【C】 【3】) Teleclass International との共同事業として、高木洋子はテレクラス活動を開始しました。これが JEARN の前身です。1991 年には、テレクラス・インターナショナル・ジャパンを設立し、ハワイとの共同事業のみならず日本独自での国際交流学習相手国の開拓も始め、活動の拡大を図りました。背景には、この頃よりテレビ会議システムの使用回線の主流が、衛星回線から ISDN 回線に変わり、会議 1 回あたりのコストが大幅に低減されたことがあります。

日本の学校の iEARN プロジェクト参加は、阪神・淡路大震災発生の翌年、1996 年から始まりました。1998 年に、iEARN-Japan を創立し、高木洋子が代表に就任、事務所を、大阪府高槻市のテレクラス・インターナショナル・ジャパン内に置きました。

JEARN は、2001 年 (財) コンピュータ教育開発センター事業 E スクエアプロジェクトの一環として『地域企画プロジェクト』に採用され、助成対象となったことを機会に設立されました。このとき助成対象となったのは、iEARN-Japan とテレクラス・インターナショナル・ジャパンの 2 つの活動ですが、国際交流学習を行う多くの団体が一同に集まるプラットフォーム組織を育てたい、との思いから、新たな組織を立ち上げました。

2002 年 10 月には特定非営利活動法人 (NPO 法人) の認証を内閣府に申請し、2003 年 1 月 6 日に認証されました。

JEARN は、iEARN の年次国際会議『2003iEARN 国際会議 in Japan』を 2003 年 7 月 21 日-25 日に

兵庫県立淡路国際会議場で開催。iEARN 国際会議では、iEARN が行う教育プロジェクトの成果発表・提案、さらに多くの先進的事例研究発表などの情報交換を行うために、世界中の小・中・高等学校の供し、および教育関係者が海外約 60 カ国から 400 人、日本国内から約 600 人が参加しました。この会議で、テレビ会議をはじめとする ICT の支援や会場の準備などで、地域ボランティアが支援の輪を広げ、ボランティア同士の連帯感を創出しました。

この会議での国内外の出会いが、国際教育をすすめる先生方の輪を広げる新たな一歩となり、日本発の iEARN プロジェクト誕生のきっかけとなりました。その一つに、会議のテーマソング「ねがい」は、会議終了後、それぞれの国のみなさんが各国に持ち帰り、紹介し、平和への祈りを込めた「ねがいコネクション」プロジェクトとしてスタートしました。現在 36 カ国、126 名のみなさんが、地球上の平和を希求し、神戸発信の HP やメールで、その輪を広げています。

また、『2003iEARN 国際会議 in Japan』開催地兵庫から、2004 年 6 月、阪神・淡路大震災の 10 周年記念事業のひとつとして、大震災で経験した教訓「命の尊さ」に学び、「大震災の教訓を世界へ 命の尊さを考えよう！」をテーマに、「防災世界子ども会議 (NDYS)」プロジェクトを実行委員会組織（実行委員長 岡本和子）でたちあげました。この防災プロジェクトは 2004 年 9 月、世界 15 カ国、国内外 54 の学校、1,000 人にも及ぶ子どもたちの交流からスタートしました。

その中間発表として 2005 年 1 月、国連防災世界会議 パブリックフォーラム『復興への思いが世界を包む 絵画展・写真展とテレビ会議』を開催。成果発表として、2005 年 3 月、『防災世界子ども会議 2005in ひょうご』国際会議を開催するに至り、世界 12 カ国から、子どもや教育者 60 人が、全体では 450 人が集い、宣言発表会で、各国代表が、「きょうを防災について考える出発点として、防災について学び、感じ、共有しよう！」とした NDYS2005 宣言をまとめました。こうして NDYS2005 で防災教育ネットワークの基礎ができました。今後も継続して、世界の子どもたちが、友好関係と防災教育ネットワークを広げて行きます。

1.3 JEARN の推進体制

地域のボランティアと会員の翻訳・HP 作成・テレビ会議などのスキル登録により、このスキルを活かして、国際教育支援の輪を広げ、地域の学校がそれぞれに国際教育推進のモデル校（「地域と学校の連携による」）となる日を目指して、JEARN はその繋ぎ役、サポーターとして取り組んでいます。

「iEARN を身近に」感じていただくために、学校、教育関係者、教育委員会の要望に応じて、セミナー・ワークショップを開催しています。国際協働学習が初めての先生方には、iEARN プロジェクトを用いた疑似体験を行い、ICT の効果的な使い方・マナーについても体験します。経験豊かな先生方には、iEARN オンラインフォーラムコース、国際教育コーディネータ研修等も予定しています。

会員の皆様には、国際教育の交流の場としての「JEARN ML」と月毎に、メールマガジン「JEARN FLASH」を配信しています。「人と人が楽しく繋がる仕組み!それが JEARN このすてきな仕組みをみんなで育てよう!」で始まるこのメールマガジンに、アイアーン情報、海外の教師との出会いの場の提供、「なるほど the アイアーン・ワールド」他の国際教育ニュースを満載し、国内のネットワークをさらに拡張しています。

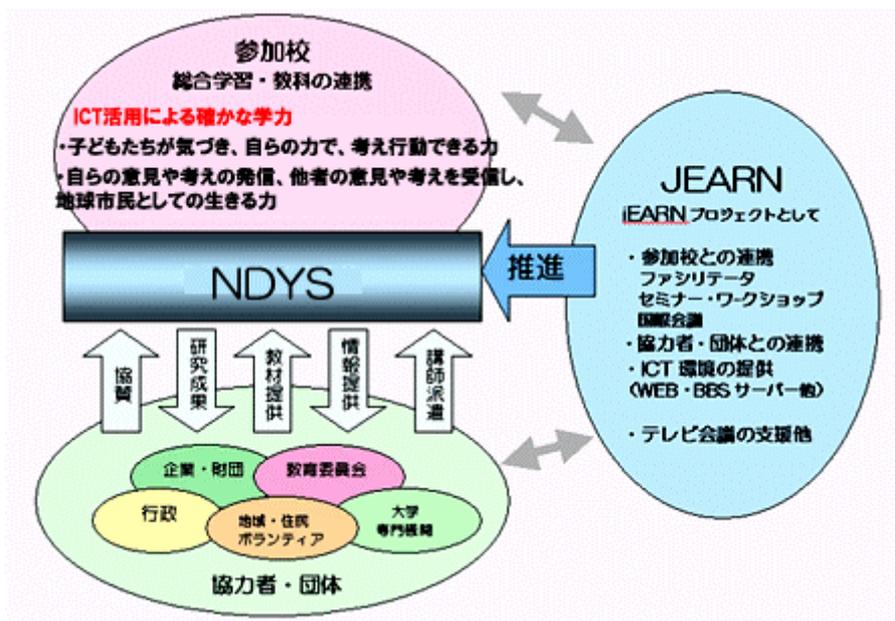


図1. 組織の関係図 例 NDYS プロジェクト

JEARN 代表 高木 洋子について

1940年中国東北部（旧満州）撫順に生まれました。1946年帰国後、兵庫県立姫路東高校を卒業し就職、結婚などを経て、1980年英会話教室を開きました。その後、1985年から Teleclass International（ハワイ）との共同事業を開始、1986年には Chaminade University of Honolulu へ留学、1987年“Academy of Art”学位を取得し帰国、以降国際交流学習支援の活動を積極化させ、1991年のテレクラス・インターナショナル・ジャパン設立へと続きます。

役職

- Teleclass International Japan 代表（1991年～）
- Schools Online Japan 理事（1998年～）
- iEARN-Japan 代表（1998年～）
- グローバルプロジェクト推進機構（JEARN）代表（2001年～）
- 2003 iEARN 国際会議 in Japan 大会委員長（2002年～）
- 文部省・通産省 100校プロジェクト国際化ワーキンググループ専任委員（1997～98年）
- 文部省・通産省 Eスクエアプロジェクト（新100校プロジェクト）家庭向け情報教育ハンドブック編集委員（1999年～2000年）
- 文部省 学校情報化に係わるボランティア支援のあり方に関する懇談会メンバー（1999年）

2 iEARN の概略

2.1 iEARN の理念

iEARN（アイアーン）の定款の序文にはこう記されています。

「iEARN の展望と目的は、若い世代の人びとが、下記の目的を達するように構想された、多くのプロジェクトに参加するのを可能にすることです。そのプロジェクトは、この地球と人類の平和と幸福に意義ある貢献をなすものであり、インターネットをはじめとした ICT（情報通信技術）を活用して、教育的・社会的に役に立つさまざまな成果をもたらすものです。」

iEARN の創始者で、Copen Family Fund（コーペンファミリー基金）代表の Peter Copen 氏は、「戦争でお互いが傷つけあうことのないよう、両国の学校間をオンラインで結び、子供達と教師達が国際協働プロジェクトに取り組むことで相互理解を深めてほしい」という平和への願いから、私財を投じて、この世界的にも先駆的なプロジェクトを開始しました。

現在も iEARN では、「Connecting Youth...Making a Difference in the World（子どもたちの絆が世界を変える）」のスローガンのもと、平和を望む心をもつ子どもたちを世に送り出すための活動を続けています。

2.2 iEARN の歩み

iEARN は現在、116 の国と地域、2 万校、約 100 万人の子どもたちからなる NPO（非営利事業組織）です。ICT を活用して、世界中の先生や生徒のオンラインによる国際協働学習を推進しています。

1988 年以来、iEARN は、生徒が世界中の仲間と、有益な教育的プロジェクトに取り組めるように、オンラインで学校をつなぐ試みを続けてきました。最初のデモンストレーションは、モスクワの 12 校とニューヨーク州の 12 校をリンクして行われました。ニューヨーク州教育庁と旧ソビエト科学アカデミーが協力し、生徒たちは英語とロシア語の両方でプロジェクトを実施しました。

1990 年から 1994 年の間に成果を取めたプロジェクトをベースにして、世界中の学校にネットワークを広げていった iEARN は、今日では 110 ヶ国以上のネットワークに成長しています。またその実績から、世界先進各国首脳にも認められ、各国の政府、教育関係省との共同プロジェクトも多く手がけています。（例えばアメリカにおける教員教育の支援。詳しくは、<http://www.ed.gov/Technology/guide/international/credits.html> ）

2.3 iEARN のネットワークと国際協働プロジェクト

2.3.1 ネットワーク

iEARN では、各国組織を本部、支部に分けていません。これは、各国の独自性を尊重すると共に、上下関係ではないネットワーク型の新たな連携のスタイルを目指しているからです。

iEARN の重要な決定は、アセンブリーと呼ばれるメンバー国による協議で行います。このアセンブリーは、iEARN 参加国ならどの国でも立候補でき、他国の承認を持って決定します。現在 21 カ国がアセンブリーメンバーとなっており、日本もその一員です。

2.3.2 国際協働プロジェクト

プロジェクトのホームページを情報の拠点とし、参加校のホームページをつなぎ、インターネットテレビ会議、フォーラムなどを異文化コミュニケーションを支えるツールとして準備して、「ネットワーク上の学び」の環境を整えています。世界の学校・子どもたちが、各国の教育事情、通信環境を考慮し、「いつでも、どこでも、誰にでも」ネットワークや機器を意識することなく、交流がはじめられる、ユビキタスネット社会での国際協働プロジェクト学習を目指しています。

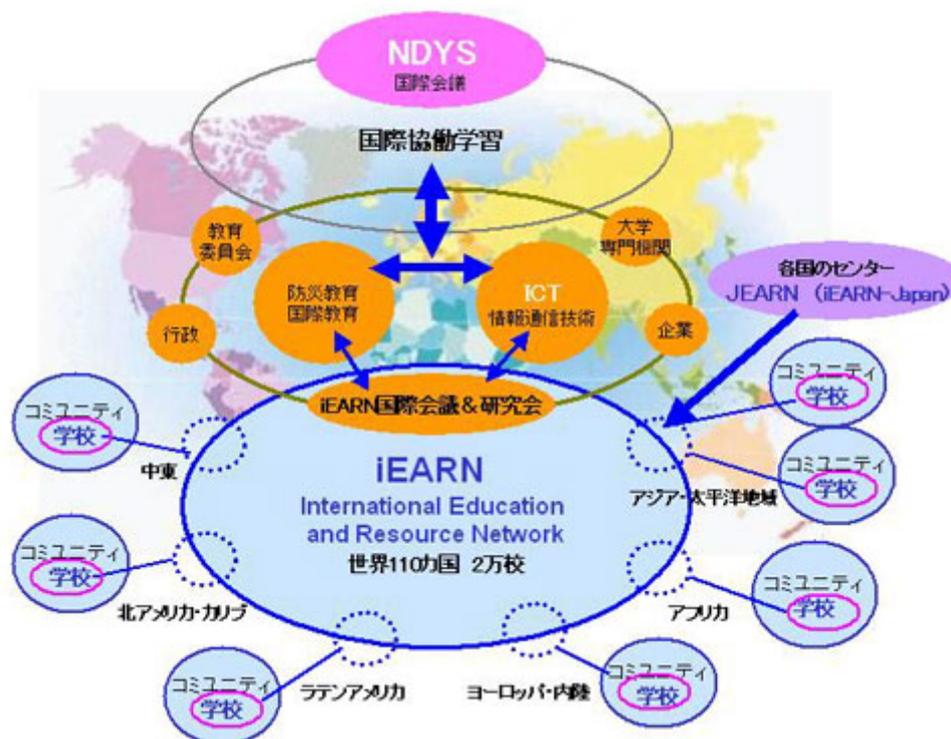


図2 iEARN ネットワークと国際協働学習ストラクチャー 例 NDYS プロジェクト

2.4 参加国と地域

1988年、アメリカと旧ソ連から始まったiEARNは、2006年3月時点で116の国と地域が参加しています。参加国と地域は次の通りです。

North America & Caribbean (7)

Canada, Dominican Republic, Jamaica, Puerto Rico, Suriname, Trinidad & Tobago, United States,

Latin America (12)

Argentina, Brazil, Chile, Colombia, Costa Rica, Ecuador, El Salvador, Guatemala, Mexico, Paraguay, Peru, Uruguay,

Europe & Mediterranean (37)

Albania, Armenia, Andorra, Austria, Azerbaijan, Belarus, Bosnia/Herzegovina, Bulgaria, Croatia, Cyprus, Czech Republic, Estonia, Finland, France, Georgia, Germany, Greece, Hungary, Ireland, Italy, Latvia, Lithuania, Macedonia, Moldova, Netherlands, Poland, Portugal, Romania, Russia, Slovakia, Slovenia, Spain, Sweden, Turkey, Ukraine, United Kingdom, Yugoslavia,

Middle East (13)

Bahrain, Egypt, Iran, Iraq, Israel, Jordan, Kuwait, Lebanon, Oman, Palestinian Authority, Syria, UAE, Yemen,

Africa (27)

Algeria, Botswana, Burkina Faso, Cameroon, Congo, Democratic Republic of Cote D'Ivoire (Ivory Coast), Ethiopia, Gambia, Ghana, Kenya, Mali, Mauritania, Morocco, Mozambique, Namibia, Nigeria, Senegal, Sierra Leone, Somalia, South Africa, Sudan, Tanzania, Togo, Tunisia, Uganda, Zambia, Zimbabwe,

Asia & Pacific (20)

Australia, Bangladesh, Cambodia, China, India, Indonesia, Japan, Kazakhstan, South Korea, Kyrgyzstan, Malaysia, Mongolia, Nepal, New Zealand, Pakistan, Philippines, Sri Lanka, Taiwan, Thailand, Uzbekistan,

3 iEARN のプロジェクト

3.1 iEARN のプロジェクトの概念

アイアーンの学習形態は、プロジェクトを中心としたプロジェクト学習 (PBL) です。これまでのプロジェクト学習が1つの学校の活動に終始することが多かったのとは異なり、ネットワーク上で子どもたちを繋ぐことにより、海外の生徒と国際協働学習を行うところが特徴です。



図3 アイアーンプロジェクトの概念

国際化が一層進展している社会では、これまでの異文化を理解するだけにとどまらず、子どもたちが、国際社会の一員としてどのように生きていくかを考え、行動に移すことが重要です。国際社会において、地球的視野にたつて主体的に行動できる人材育成のプログラムとして最適です。

3.2 iEARN のプロジェクト推進体制

2005-2006 では、152 件のプロジェクトがあります。それぞれの国では、国際協働プロジェクト学習を支援する iEARN コーディネーターや支援組織を持っています。iEARN プログラムが国の教育機関のもとで実施されている国もあれば、教育や青少年活動に関わる非営利事業組織が推進している国もあります。

iEARN プロジェクトに参加している生徒は約 100 万人に達しており、まだまだ潜在的な成長力があります。iEARN プロジェクトに参加している教師や生徒が話す言語は、29ヶ国語です。

プロジェクトに参加した生徒と教師は、プロジェクト参加者のための「オンライン・フォーラム (掲示板)」を活用して、プロジェクトメンバーである世界中の生徒や教師と交流しながらプロジェクトを進行させます。

この 10 年間に、iEARN に参加する教師たちは、オンライン国際協働プロジェクトの設計と実施に多大な経験を積んできました。彼らは、これからの教育関係者に、双方向オンライン教育プロジェクトに参加できるような訓練を実施するリーダーです。

3.3 おすすめプロジェクト

子どもたちに問題意識とそれに対する理解、創造的な解決法を促すプロジェクトを主眼としています。子どもたちと教育者は、プロジェクトを自由にデザインすることができます。詳しくは、<http://ndys.jearn.jp/iEARN/iEARNproject.html> をご覧ください。

ここでは代表的な 12 のプロジェクトをご紹介します。

1. 創造性や言語力を身につけるプロジェクト(7)

◆テディベアプロジェクト<Teddy Bear Project>

日本国内でもっとも人気の高いプロジェクトです。ぬいぐるみのくまを「留学生」としてお互いに交流相手校に派遣。相手校からやってきたくまの立場・視点で子供たちが書いた日記を交換することにより、相手国の文化や習慣を学びます。シンプルで難しい技術や専門知識を必要としない、とてもキュートでかわいいプロジェクトです。小学校から高校まで、全ての学年で実践できます。

◆アートの行進 <The Art Miles>

ユネスコが推進している「子ども達のために非暴力・平和の文化を築く 10 年プロジェクト (2001-2010)」の一つです。ユネスコが提唱しているコンセプトを、アートという手法でアイアンのグローバルネットワークを使って実働させ展開している 10 年構想のプロジェクトです。ゴールは 2010 年！ 世界中のアートマイル壁画で エジプトのピラミッドを取り囲もう！

◆おりがみ <Origami>

おりがみ作品の世界規模での交流。これは一枚の紙が立体に変化する楽しみを子供たちに与えるプロジェクト。場所もとらず、お金も時間もかからない、ただ一枚の紙と折り方の説明書があればよい。

◆みんなと並ぼう！<Side By Side>

生徒たちは過去、現在、未来をあらわすものをつけて自分の肖像画を描きます。みんな並ぼう！

◆ねがいコネクションー広島から発信する平和ー<NEGAI Connection>

このプロジェクトのキーワードは「世界」「平和」「架け橋」「夢」「地球」「和解」です。このプロジェクトの目的は「ねがい」という歌とともに、平和に関するアイデアを広めることです。同時に世界に「ねがい」仲間を広げその友情を育みたいと思います。

◆各地に伝わる民話<Folk Tale Project>

民話は人生の問題、習慣、伝統、慣習について学ぶものです。そして、それは一般的なテーマを

共有している。たとえば、善と悪の戦い、賢明と無知、このプロジェクトは民話を通じて文化の多様性と地球社会をしっかりと見るものです。世界中の子供たちは「三匹の子豚」「眠れる森の美女」の話を知っているが、彼ら自身の国の民話についてあまりよく知らない。生徒たちは絵画や作文を通じてほかの国の参加者たちに自国の民話について紹介します。

◆私のヒーローを紹介します！<My Hero Project>

物語、写真、芸術、マルチメディアを通じて、最良の人を発表する、学際的なオンライン上の対話のWebサイト。My Heroは生徒たちの年齢を問わず、物語、芸術作品、マルチメディアのなかのヒーローについて発表するプロジェクトで、現在進行中です。このプロジェクトは文化的気付きを奨励し、世界、地域、家族の中の英雄に敬意を表し、全体的な物語を通じて、文化に気づき、理解することを追及しています。

2. 社会性・人間性をテーマに交流するプロジェクト(3)

◆防災世界子ども会議 (Natural Disaster Youth Summit NDYS)

阪神・淡路大震災の10周年記念事業のひとつとして、大震災の教訓「命の尊さ」に学び、兵庫を核とした世界の子どもたちが、「防災」の未来について考える初めての試みとして始まりました。命の大切さや人間としての在り方生き方を考え、「世界」に思いをはせることのできる国際的な視野の防災意識を持った人材育成を目的としてスタート。現在は地域環境防災に配慮した災害安全マップづくりや、小さな防災大使(テディベア)を介しての交流学习に取り組んでいます。世界各地の安全マップの考え方や交流学习での成果を共有することで、世界のどこに住んでいても、また予想しなかった災害にも対応できる力を養います。子どもたちに芽生えた絆を大切に、地球市民として互いを慈しみながら、「防災」の未来を共に考えていくプロジェクトです。

スローガンは、広げよう！ 防災教育ネットワーク 深めよう！こころの絆

◆ドリームスクールシアター<Dream School Theater>

世界中の教室の子供たちがテレビ会議のシリーズの間に彼らの文化についての考えを共有します。ドリームシアターは、ISDNやインターネットを使った多数の直接会話法により、各参加する学校に接続されます。それぞれのステージは、彼らの伝統や文化を、色や音、そしてダンスなどの身振り手振り、歌、詩、劇、ミュージカル、パントマイム、人形劇、影人形などで表現するという、特別な場となります。

◆まちんと<Machinto>

戦争を語り継ぐ現代の民話「まちんと」(文：松谷みよ子、絵：司 修)を共通教材にするプロジェクトです。広島原子爆弾で「まちんと・まちんと」(もう少しトマトを。。。)と泣きながら死んだ3才の女の子は、小鳥になった。子どもたちも犠牲にする無差別殺戮の戦争・テロの歴

史を知り、今でも世界のあちこちで泣いているこの小鳥を探そう。この小さな小鳥にできることを一緒にしよう。アメリカの Jeniffer 先生と高木が立ち上げたプロジェクトです。

3. 数学や科学、環境問題をテーマにしたプロジェクト(2)

◆ユースキャン (Youth Communicating and Networking)

YouthCaN は、当初、国連のプロジェクトとしてスタートしました。YouthCaN で活動をしているのは、ニューヨークの地元高校生たち。全員違う学校から集まってきたボランティアです。-私たちの手で地球を救おう！-生徒達がテレコミュニケーションを使って、世界のみennaと環境活動を共有していくためにオンラインネットワーク作って進めています。自分達の社会で直面した環境事項について報告したり、実践対処したりします。

◆ソーラークッキング；太陽熱料理 プロジェクト<Solar Cooking Project>

参加者はソーラー調理器の創作・テスト・使用を通じて代替エネルギーの実験をやることとなります。参加者は、レシピ、調理器作成、実験や調査をして発見したものを、オンラインやWEBをつかって共有します。

今も話し継がれて、子どもたちや大人を励ましているプロジェクトのご紹介

◆ニカラグアのポンププロジェクト (Clean Water For Nicaragua)

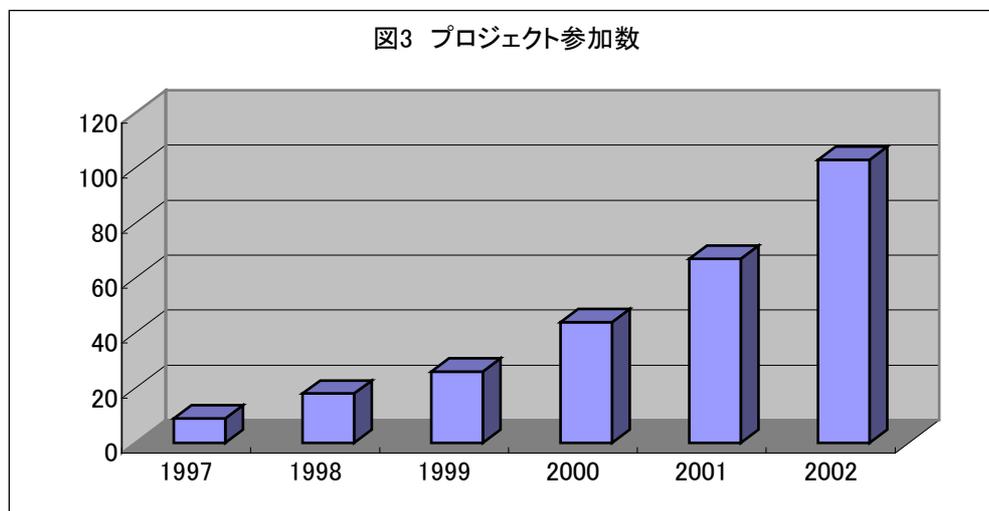
もう何年も前の事です。ニカラグアのある村の井戸が壊れ、村の子どもたちは生活用水を運ぶために駆り出され、学校へ行くことができないというニュースが流れました。これを聞いたアメリカのある小学校では、子どもたちが井戸を修復するためのお金を集めようと考えました。電気屋で貰ったダンボールを使ってお化け屋敷を作り、25 セントの切符を売り、525 ドルのお金を集めました。ニカラグアでは、いくつもの井戸を修復することができ、村の女の子から手紙が届きました。「アイアーンのみennaのお陰で、私は今、学校へ通っています。ありがとう。」

小さな Make a difference を伝えるプロジェクトです。

3.4 国内での参加校一覧

日本の学校の iEARN プロジェクト参加は、1996 年から始まりました。知名度の高まりとともに徐々に参加校も増えています。

2002 年までのプロジェクト参加数の推移



2004-2005 参加校一覧（事務局把握分）

「ティディエア」

(東京) 西東京市立田無第四中、
都立晴海総合高校、
(神奈川) 座間市立相模野小、
(茨城) つくば市立谷田部東中、
取手市立野の井中、
(富山) 八尾町立保内小、
(大阪) 池田市立秦野小、私立精華高校、ECC Jr BS 津久野台教室、
(兵庫) 伊丹市立笹原小、神戸市立榎野台小、香寺町立香呂南小、大河内町立上小田小、大河内町立寺前小、和田山町立大蔵小、姫路市立広畑第二中、県立宝塚西高校、朝霧幼稚園、ECC Jr 鈴原教室、西角 Kids English School、Sherry Kids English School、
(京都) 府立久御山高校、
(岡山) 津山市立北小、
(福岡) 北九州市小倉中央小、
(長崎) 県立佐世保商業高校、
(熊本) 天水町立玉水小、
(鹿児島) 薩摩川内市立上甌中、
(沖縄) 沖縄尚学高等学校附属中
「サイド・バイ・サイド」
(三重) 久居市立立成小、
(兵庫) 公文式有野中町教室

「防災世界子ども会議」

(東京) 墨田区立鐘淵中、
(愛知) 名古屋市立柳小、
(大阪) 高槻市立第一中、
(兵庫) 神戸市立榎野台小、明石市立野々池中、神戸大学附属住吉中、宝塚市立高司中、神戸市立湊中、明石市立衣川中、県立舞子高校、県立明石西高校、県立川西高校宝塚良元校、私立啓明学院中・女学院高校、神戸国際大学附属高校、私立甲南女子高校、神戸市立葺合高校、公文式有野中町教室、Sherry Kids English School、
(滋賀) ECC Jr BS 鴨川平教室
「ねがいコネクション」
(北海道) 北海道北見柏陽高校、
(京都) 京都市立大原野中、
(大阪) 高槻市立第一中、
(兵庫) 香寺町立香呂南小、神戸市立湊中、西宮市立上ヶ原中、姫路市立網干中、
(広島) 広島市立大州中、呉市立昭和西小、広島市立宇品中
「フォークテイル」
(広島) 広島大学附属三原中、
(大分) 日本文理大学附属高校

「アートマイル」

(大阪) 高槻市立第一中、
(兵庫) 香寺町立香呂南小、
(熊本) 熊本市立弓削小
「日本からスロバキアへ愛を込めて」
(三重) 津市立安東小、
(大阪) 岸和田市立山直北小、高槻市立城南中、高槻市立第一中、
(兵庫) 香寺町立香呂南小、神戸市立湊中、養父市立青溪中、県立尼崎南高校
「Dream School Theater」
(埼玉) 県立和光国際高校、
(兵庫) 県立川西高校宝塚良元校
「ムービング ボイス」
(兵庫) 伊丹市立伊丹高校
「Coolest Class」
(滋賀) ECC Jr BS 鴨川平教室
「Me and My Pet」
(兵庫) 香寺町立香呂南小
「Pen pal」
(兵庫) 神戸市立湊中
「難民ペンパルとの交流」
(茨城) つくば市立谷田部東中

4 国際会議

4.1 iEARN 国際会議

世界中で iEARN の活動に参加している教師たちが、その成果を交流し新しいプロジェクトを創りあげるため、1994 年にアルゼンチンで最初の iEARN 国際会議が開かれました。これは毎年定例の会議となり、現在 70 ヶ国以上から教育関係者が参加しています。この会議は、教師が互いに教室でどのようにインターネット等の技術を活用しているかを知り・学ぶチャンス場となっています。そしてまた、オンラインで協働してきた他の先生と実際に会おう場ともなります。

1997 年からは、年次国際会議と同時に国際ユースサミットを開催しています。これには 20 ヶ国以上から生徒が参加して友情の絆を結び、そして将来の協働プロジェクトを計画します。

4.2 国際会議の歴史

1994 年 第 1 回 (The 1st Annual iEARN International Conference)

開催地：プエルトマドリン・アルゼンチン (Puerto Madryn, Argentina)

参加者数：120 人 (9 カ国)

1995 年 第 2 回 (The 2nd Annual iEARN International Conference)

開催地：メルボルン・オーストラリア (Melbourne, Australia)

テーマ：Come, my friends, 'Tis not too late to seek a newer world.

参加者数：170 名 (28 カ国)

1996 年 第 3 回 (The 3rd Annual iEARN International Conference)

日時：1996 年 7 月 開催地：ブタペスト・ハンガリー (Budapest, Hungary)

テーマ：Struggling with basic issues using the telecommunication in the classroom

参加者数：192 名 (32 カ国) 日本参加者：1 名 (初参加)

1997 年 第 4 回 (The 4th Annual iEARN International Conference, The 1st iEARN Youth Summit)

日時：1997 年 7 月 6 日～12 日 開催地：カタロニア・スペイン (Catalonia, Spain)

テーマ：Cultural Diversity and Global Community

参加者数：238 名 (36 カ国)

日本参加者：3 名 プレゼンテーション：100 校プロジェクト

1998 年 第 5 回 (The 5th Annual iEARN International Conference, The 2nd iEARN Youth Summit)

日時：1998 年 7 月 12 日～18 日

開催地：チャタヌーガ・アメリカ (Chattanooga, Tennessee, USA)

テーマ：Linking Communities to Make a Difference

参加者数：400 名 (46 カ国)

日本参加者：3 名 プレゼンテーション：テレクラス紹介

1999 年 第 6 回 (The 6th Annual iEARN International Conference, The 3rd iEARN Youth Summit)

日時：1999 年 7 月 開催地：サンジュアン・プエルトリコ (Puerto Rico) プエルトリコ大学

テーマ：Language, Culture, and Equity through Global Learning Networks

参加者数：430 名 (40 カ国)

日本参加者：5名

2000年 第7回 (The 7th Annual iEARN International Conference, The 4th iEARN Youth Summit)

日時：2000年7月11日～19日 開催地：北京・中国 (Beijing, China) 中国科学ホテル

テーマ：Sharing and Understanding

参加者：460名 (62カ国)

日本参加者：16名 プレゼンテーション：「未来教育」・「VOTE プロジェクト」

2001年 第8回 (The 8th Annual iEARN International Conference, The 5th iEARN Youth Summit)

日時：2001年7月8日～14日

開催地：ケープタウン・南アフリカ共和国 (Cape Town, South Africa) ケープタウン大学

テーマ：Education in the Internet Age

参加者：413名 (68カ国)

日本参加者：17名 (うち iEARN Youth 1名) プレゼンテーション：9件

2002年 第9回 (The 9th Annual iEARN International Conference, The 6th iEARN Youth Summit)

日時：2002年7月7日～14日

開催地：モスクワ・ロシア (Moscow, Russian Federation) コスモスホテル

テーマ：Humanity in the Internet Age

参加者：689名 (65カ国)

日本参加者：14名 (うち iEARN Youth 1名) プレゼンテーション：8件

2003年 第10回 (The 10th Annual iEARN International Conference, The 7th iEARN Youth Summit)

日時：2003年7月21日～27日

開催地：兵庫県・日本 (Hyogo, Japan)

テーマ：At the Crossroads: Finding Future Milestones

参加者：海外500人 (70カ国)、日本1,000人

2004年 第11回 (The 11th Annual iEARN International Conference, The 8th iEARN Youth Summit)

日時：2004年7月11日～16日

開催地：コツシエ、スロバキア (Kosice, Slovakia)

参加者：海外400人 (63ヶ国)

日本参加者：19名 プレゼンテーション：8件

2005年 第12回 (The 12th Annual iEARN International Conference, The 9th iEARN Youth Summit)

日時：2005年7月17日～23日

開催地：ダカール、セネガル (Dakar Senegal)

テーマ：Connecting people for better education

参加者：海外500人以上 (60ヶ国)

日本参加者：20名 プレゼンテーション：5件